

平成 28 年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。3 日から 4 日は前線を伴った低気圧が日本海からオホーツク海へ進んだため、全国的に雨となり暴風となったところもありました。また、低気圧に向かって、南よりの暖かい空気が流れ込んだ影響で、北・東日本では真夏日となったところがありました。6 日と 9 日から 10 日は日本付近を低気圧や前線が通過して、西日本太平洋側を中心に降水量が多くなりました。

中旬は、本州付近を通過する移動性高気圧に覆われて、北日本から西日本にかけては晴れた日が多くなりました。北日本では南からの暖気と多照の影響で気温の高い日が多くなりました。11 日と 16 日から 17 日は、前線を伴った低気圧が日本海から北日本に進んで、全国的に雨となりました。沖縄・奄美では、梅雨前線が停滞して 16 日ごろに梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、本州付近が移動性高気圧に覆われ、北海道地方を中心に晴れた日が多くなり、北日本の日照時間が多くなりました。一方、九州では低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、西日本太平洋側の日照時間は少なくなりました。沖縄・奄美では前線の影響を受けにくかったため少雨・多照となりました。また南西からの暖かい空気が流れ込んだため、全国的に気温はかなり高く、特に旬の前半は北海道地方も含めて全国で真夏日となりました。

月平均気温は全国的にかなり高くなり、札幌（北海道）、長野（長野県）など 25 地点で 5 月の月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新し、他 5 地点で 1 位タイの値を記録しました。月降水量は、北日本太平洋側と東日本で少なくなり、西日本太平洋側で多くなりました。月間日照時間は、北日本でかなり多く、東日本と西日本日本海側で多くなりました。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値より 6 ポイント高い 77%でした。各地方の適中率では、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で 1～2 ポイント低くなり、それ以外の各地方で高くなりました。特に東北地方と関東甲信地方では例年値より 11～14 ポイント高くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 2.6 となりました。各地方の予報誤差は、四国、九州北部、九州南部の各地方で 0.1 大きくなり、それ以外の地方で小さくなりました。特に東北、関東甲信、北陸の各地方では例年値より 0.5～0.6 小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.9 となりました。各地方の予報誤差は、概ね例年と同様でした。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北にかけて梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の生育に影響が及ぶことがあります。週間予報で曇りや雨の日が予想され平年より気温の低い日が続く場合には、早めの対策を取るなど、向こう一週間の天気や気温の傾向を農作物管理等に活用してください。